

視 察 調 査 報 告 書

委 員 会 名	健幸まちづくり推進特別委員会
参 加 者	委員長 鈴木 静男 副委員長 加藤 嘉哉 委 員 大原 昌幸 三浦 康宏 杉山 智騎 畑尻 宣長 山崎 泰信 井村 伸幸 小木曾 智洋
視 察 日 時	令和元年5月13日（月）13:00～14:30
視察先・概要	滋賀県草津市 人口：129,735人 世帯数：55,140世帯 面積：67.82 k m ² 特記事項：住みよさランキング2018（東洋経済）総合41位 （安心211位、利便22位、快適72位、富裕102位、住居683位）
視 察 項 目	「健幸都市づくりの取り組み」について
視 察 概 要	1 背景、目的 草津市は、令和12年を境に人口が緩やかに減少していく見込みであり、高齢化率は、他市と比較すると低いものの、市内の学区単位で比べると、地域によって大きな差がみられる状況である。 今後の少子高齢化の進展やそれによる人口構造の変化を見据え、また、まちづくりは市民が健やかで幸せであると感じていただくことにより成り立つものであると考え、平成28年度から、新しい都市モデル「健幸都市」づくりに向けた取り組みを進めている。 平成28年8月28日には、市として健幸都市をつくり上げていく意思や目指すべき方向性を示すため、「草津市健幸都市宣言」を行った。 また、平成29年3月には、関連計画とも連携しつつ、これまで健康福祉政策と十分に連携がとれていなかった都市計画や産業振興の分野等と連携した取り組みも含め、健幸都市を実現していくために全市的に取り組む事項を定めるため、「草津市健幸都市基本計画」を策定した。 2 課題解決に向けた主な方向性 (1) 交流機会や健康拠点の充実（まち） (2) 地域の主体的な健康づくりの推進（ひと） (3) ライフステージに応じた健康づくりの推進、大学・企業等との連携（しごと） (4) 市職員を対象とした健康づくりの推進 3 健幸都市基本計画の概要 (1) まちの健幸づくり 従来からの健康施策の枠組みを超え、ハード面からも健康づくり

	に取り組むこととし、「出かけたくなるまちづくり」、「交流機会や健康拠点の充実」を基本施策として展開している。 (2) ひとの健幸づくり 地域と個人の視点から、健康づくりに取り組むこととし、「地域の主体的な健康づくりの推進」、「個人の健康づくりの推進」を基本施策として展開している。 (3) しごとの健幸づくり 産学公民が連携して健康になれるまちづくりを進めることとし、「地域産業と連携した健康産業の活性化」、「大学・企業等との連携」を基本施策として展開している。 4 その他の取り組み (1) 市職員を対象とした健康づくりの推進 草津市役所では、一事業所として健幸宣言を行い、「日ごろからの適度な運動」、「栄養バランスのとれた食事」、「心の健康づくり」、「ワーク・ライフ・バランスの推進」の4点を推進しており、市民や職員が階段を使用したくなるデザインの設置や徒歩・自転車通勤の推進、販売弁当にカロリーを表示するなどの取り組みを行っている。 (2) 草津市健幸都市づくり推進チーム 健康都市づくりを、市の総合政策として推進していくため、将来を見据えた健幸都市づくりに係る施策の企画・立案を行うとともに、全庁的に職員の意識共有を図ることを目的として、平成30年4月に、若手職員を中心とした部局横断的なチームを設置し、先進地視察や会議を開催した。チームからの提案事業は、実際に予算化し、プロジェクトに盛り込んだ。
所 感 ※視察しての感想や岡崎市への提言など	・健幸づくりにおいて目標値を設定しており、取り組みを進める上での指標になるので、参考にすべき点である。大学や企業との連携を図ることで、健幸都市づくりの取り組みを市内に周知することができ、推進ができていたと実感した。草津市のように、市職員を対象とした健康づくりの推進は、本市においても実施していきたい。 ・学区ごとの健康状態を分析し、学区ごとへの説明をしていくことを提案する。町なかに、目的地までの距離、消費カロリー等の路面標示や、駅から徒歩を選んでしまうインパクトのある楽しいポスターや横断幕等の掲示をしていくことを提案する。現在、市内企業の協力によって年に1カ月のみ販売されている野菜たっぷりヘルシー弁当の販売の機会をふやしていくことを提案する。 ・「健幸づくり」に対し、基本計画の中でそれぞれ具体的な目標値を挙げ、そこを目指すとはっきり定めている点に感心した。しかし伺ってみると、やはりそこにはいろいろと反省点、課題もあり、その過程において現在も種々取り組んでいる。庁内に「健幸都市づくり推進チーム」を設け、そこから提案を受けたものは市長の意向で必ず取り組む等、目標

設定年度（平成34年度）までの取り組み、成果をまた確認したい。

・健幸都市くさつキックオフシンポジウムにて草津市健幸都市宣言を行うことにより、市としての方向性を大々的に示すことから始まった草津市の健幸都市づくり。草津市健幸都市基本計画の中で、まちの健幸づくり、ひとの健幸づくり、しごとの健幸づくりと明確に体系図をつくり基本施策を打ち出している。健幸都市づくり全体目標を『草津市が「健幸なまち」だと思ふ市民の割合の増加』という、非常に難しいがきちんとした数値目標にしているところに行政としての思いの強さを感じた。また、草津川跡地公園を活用して公園を整備し、イベントとしては健幸ウォークを行い、参加者400名という結果も出している。健康増進アプリ「BIWA-TEKU」を用いて、くさつ健幸ポイント制度を開始し、歩く意識の向上を図っている。草津市も「健幸」という言葉の認知度が低く、浸透していないが、健康、健幸は特別なものではなく、意識しなくてもよい都市づくりを目指している。行政側の健幸についての思いが伝わる事業だと感じた。本市も健康、健幸は特別なものではなく、意識しなくてもよい環境整備をする必要があると改めて感じた。コンパクトシティ・プラス・ネットワーク、公共交通機関、川整備、駅周辺環境など、総合的に検討し、極小的なものにならないよう、しっかりと本市全域としての健康まちづくりを推進することを要望する。

・草津市は、健幸都市となるために「草津市健幸都市基本計画」を策定し、その目標値も設定しているところがいろんな施策を進めるために必要だと思った。また、健康を“まち”“ひと”“しごと”の健幸づくりとして、目に見える形で進めている。進めるに当たり工夫しているのは、部局横断的な常設チームを若手職員各分野からの12名で配置されたことが、健幸を核とした施策づくりに反映されていると感じた。そこからの発想が、観光資源を健康産業へと育成していく方向性を見出せていたりもする。このあたりは、提言に盛り込んでいきたいと思った。

・草津市健幸都市基本計画の健幸都市づくり全体目標で、「健幸なまち」だと思ふ市民の割合の増加を挙げている。現状地が38%に対して目標値は平成34年度60%という、高い数値に向け進めている。公共交通の利便性、健康寿命の延伸、観光の入込客数、宣言・賛同企業・団体数の増加など、本市においても具体的な数値目標を挙げ、市民に参加したくなるような施策をつくる必要があると感じた。

・平成28年に「草津市健幸都市宣言」を行い、平成29年には「草津市健幸都市基本計画」を策定し健幸都市づくりを推進しており、健幸都市の実現に向けさまざまな取り組みをされていることは参考になった。中でも、庁舎内の階段1段ごとに消費カロリーを表示し、市民や職員が歩きたくなるようなデザインを考案していることや、職員みずから自分自身のことと関心を持ち、意識づけを行うために、担当部局（健康福祉政策課）だけではなく、各部局より選ばれた若手によるプロジェクトチームを発足させ、市民に関心を持ってもらうためのアイデア出しなどに取

	り組まれていることなど、本市においても参考にすべきと感じた。また、子どもたちの将来のための減塩給食や、市民が食への関心を持ち、バランスのとれた食事をとり、不足しがちな野菜摂取量をふやすことができるよう、クックパッドサイト「草津・たび丸 kitchen」での情報発信を行うなど、今後の参考にすべき内容と感じた。 ・草津市では平成28年度、健幸都市宣言を行い、同年度に健幸都市基本計画を策定し、まち・ひと・しごとの視点からおのこの健幸づくりの施策を行っている。歩いて暮らせるまちづくりは、健幸に関する施策を行っている自治体においては、おおむねほとんどの自治体が掲げている。本市も考え方はほぼ同様であるが、根本的なまちづくりから始めるとハード整備に莫大な予算と、100年単位といった長い時間が必要となり、余り現実的ではない。まずは都市計画に盛り込むところから始め、職員全てが同じ意識を持ち、こつこつと進めていくしかない。バリアフリーや歩行者の安全安心に配慮した環境づくりを初めとし、コンパクトシティ・プラス・ネットワークの考え方を生かした公共交通網の見直し等、手をつけることのできる部分から速やかに着手してもらいたい。
委員長の総括	まちづくりは市民が健やかで幸せであると感じてもらうことにより成り立つとの考えから、健幸関連条例でなく、平成28年8月に「草津市健幸都市宣言」をし、翌29年3月に「草津市健幸都市基本計画」を策定した。宣言をすることにより、市内外へ健幸都市実現の強い意思や方向性を示し、その後に基本計画を定めて取り組みを推進する手法を視察させてもらい、大変勉強となった。 基本計画において、計画目標は取り組みの進捗や効果の評価を行う意味で、全体目標と個別目標がしっかりと設定されていた。目標を設定することは、やはり重要であると感じた。取り組みでは、「まちの健幸づくり」、「ひとの健幸づくり」、「しごとの健幸づくり」と明確でわかりやすい表現で計画体系を整え、さまざまな取り組みを実施している点は、大いに本市へ提言していきたいと考える。 「まち・ひと・しごとの健幸づくり」施策以外にも参考とすべき取り組みがあった。健幸都市を推進するには、市職員の健康づくりや意識改革が必要であるとの考えから、市職員を対象とした健康づくりの推進を行っていることである。市役所の階段へカロリー消費の表示、徒歩・自転車通勤の推進、働き方改革の推進、ストレスチェックの実施である。やはり、市民への健康づくりの推進は、市役所から発信することが重要であると感じた。今後、本市において市職員はもとより、議員も同様の取り組みを試してはどうかと考える。また、健幸都市づくりにかかわる企画・立案や全庁的に職員への意識共有を図る目的で、若手職員を中心とした部局横断的なプロジェクトチームを立ち上げ、提案事業をまとめ、実施しているシステムは、本市へも提言していきたい。 さまざまな取り組み事例や仕組みが視察でき、本市への今後の提言へ大いに参考となった。